


森林ファンドと森林 RE Designによる百年の森林事業ver2.0

岡山県 西粟倉村 (2019年度選定)

1. 地域の特徴と課題及び目標	「百年の森林構想」を着想し、林業を主軸に地域再生への道を歩みだす。再生可能エネルギー事業やローカルベンチャー・スクール事業に取り組み、人口の社会増など一定の成果を上げつつある。課題として、ローカルベンチャーあたりの事業規模が小さく、地域での雇用拡大につながりにくいこと、森林管理協定の締結面積が対象森林の1/2程度であること、民間と協働したファイナンスの確保の手法開発があげられる。	2. 関連するゴール	
3. 取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)	森林構成の再構築を検討、実施。自然林・経済林・里山経済林に機能分化した地域山林経営を計画する。また、村有林化する資金調達手法として森林ファンドを検討する。TAKIBIプログラム・ローカルベンチャー・スクールを通じて、地域の外からヒト・コトを呼び込み、また、地域内からも起業や新規事業を促す取り組みを行う。再生可能エネルギーにも取り組み、新たに2023年に設立した「西粟倉百年の森林でんき(株)」及び各関係事業者とともに、地球環境に配慮したエネルギーを生み出す持続可能な地域を目指す。		
4. 自治体SDGs推進等に向けた取組	6. 取組成果		
【ローカルベンチャー推進協議会等】 当協議会において、2023年度より新たに鹿児島県錦江町を加えた全国6自治体で広域連携を行っている。2023年7月に開催された、行政、産業界のセクターを超えて「地域の新たな産業」を協働して構築する作戦会議としてLLMin気仙沼を開催し、取組を広報。 【百年の森林事業ver2.0】 森林の一括管理を進めるとともに、森林の価値最大化を図る。その一環として、観光や集客目的での森林利用を図る。 【再生可能エネルギー事業】 「脱炭素先行地域」の推進、及び地域内技術者を巻き込みエネルギー・マネジメントシステムの構築を行い、電力の見える化を目指す。	【百年の森林事業】 2024年度は木材搬出量は9,974m ³ と前年度を下回ったが、これまでにバイオマスなど13件の新規事業を創出している。 【ローカルベンチャー事業】 新たに4社が起業した。「TAKIBIプログラム」では、「生物多様性」や「空き家利活用」をテーマに都市部企業等とのワークショップを2回行い、今後のプロジェクトの創発を目指している。また、都市企業等との協働プロジェクトの一環で、地域の移動に関する地域課題において、(一財)西粟倉むらまるごと研究所で実証研究を行い、小型モビリティを地域内に6台配置、地域の移動に関する課題解決事業を実施中。 【再生可能エネルギー事業】 「脱炭素先行地域」事業の一環で太陽光発電設備の設置・小水力発電所の稼働を行っている。また、電力をふるさと納税返礼品にも活用し、500万を超える寄付を集めている。		
5. 取組推進の工夫	7. 今後の展開策		
① ローカルベンチャー推進協議会：NPO法人ETIC.、全国6自治体による連携と中間支援組織の育成。 ② TAKIBIプログラム：地域の課題や願いをビジネスとして解決するため、地域の企業、関係人口による事業創出に取り組む。 ③ 一般財団法人西粟倉むらまるごと研究所：地方創生SDGsに積極的に取り組む企業等と連携し、実証事業の推進に取り組む等	①百年の森林事業で進めてきた「間伐」に代わる再生林の在り方とその費用負担について、新たな仕組みを検討していく。②企業との連携において、村の取り組みや森林を活用した定期的な企業研修や異業種連携を具体的に検討し、ファイナンスや森林分野にとまらない社会課題解決のスピードを上げていく。③森林を素材生産の場だけでなく、地域事業者全体で山林活用を行うべく、山林のデータ分析、特徴を可視化する。		
8. 他地域への展開状況 (普及効果)	2024年度には、73団体661人の行政視察を実施。別途職員が講演を行ったり、地域内企業が別途行う視察に参加するなど、SDGs未来都市事業にかかる普及啓発を推進。関係人口とつながるスマホアプリ「西粟倉アプリ村民票」では2025年3月末時点で2,132人が登録し、SDGsや観光に関する取り組み発信を行っている。		

SDGs未来都市等進捗評価及び総括シート（様式3）

2019年度選定

岡山県西粟倉村

2025年9月

岡山県西粟倉村 第2期SDGs未来都市計画：計画期間2022年～2024年

(1) 計画タイトル

岡山県西粟倉村 第2期SDGs未来都市計画

(2) 2030年のあるべき姿

これまで「百年の森林構想」の着想から、地域の森林資源の活用を起点に、自然資本の充実とそこから生まれる地域経済の拡充に取り組んできた。今後2030年に向かって「brighten our forests, brighten our life, brighten our future!! 生きるを楽しむ」をキャッチコピーに、ひとり一人の人生にフォーカスした取組を広げていくこととしている。そうした取組により、様々な地域に暮らす人達が、それぞれの役割を担い、楽しみながら暮らすことができる「百年の森林に囲まれた上質な田舎」を2030年に実現していることを目指す。また、「百年の森林構想」を守り続けていくことで、着想から50年後の2058年には、木材資源の循環と景観、経済林と環境林のバランスに配慮した、持続可能な森林環境“百年の森林”を実現し、さらに進化した「百年の森林に囲まれた上質な田舎」にしていきたいことを目指す。

(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール

経済	社会	環境
 	 	 

(4) 2030年のあるべき姿の実現に向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2022	2023	2024	2030年（目標値）	達成度（%）	達成度の進捗状況及び次期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
1	ローカルベンチャー事業の新規創出数【8.3】	2021年3月 48 事業	65 事業	69 事業	70 事業	90 事業	52%	次期計画反映済み。ローカルベンチャーの取組の認知が広がるなど目標達成に向けて着実に実績を重ねている。
2	都市部企業等との協働プロジェクト件数【9.1,9.3】	2021年3月 0 件	18 件	44 件	57 件	80 件	71%	次期計画反映済み。行政と事業者の緊密な連携により、双方のコネクションを活かしつつ目標達成に向けて着実に実績を重ねている。
3	福祉系ローカルベンチャー事業数【3.8】	2021年3月 3 件	4 件	4 件	4 件	4 件	100%	次期計画反映済み。目標は既に達成しており、事業者と行政の連携による取組を強化していく。
4	教育系ローカルベンチャー事業数【4.7】	2021年3月 3 件	4 件	4 件	4 件	4 件	100%	次期計画反映済み。目標は既に達成しており、事業者と行政の連携による取組を強化していく。
5	再生可能エネルギーによるCO2削減量【7.2】	2021年3月 2,078 t-CO2	3,211 t-CO2	3,386 t-CO2	3,386 t-CO2	3,500 t-CO2	92%	次期計画反映済み。脱炭素先行地域を中心に太陽光パネル等の設備投資を進めることで目標達成に向けて着実に実績を重ねている。
6	百年の森林事業 森林施業面積【15.2,15.4】	2021年3月 1,821 ha	1,946 ha	2,020 ha	2,137 ha	3,000 ha	27%	次期計画反映済み。実績は着実に伸ばしているが、目標達成にはやや届かない状況。施業のための森林管理契約が伸び悩んでいるため事業者と連携して対策を行っていく。

岡山県西粟倉村 第2期SDGs未来都市計画：計画期間2022年～2024年

(5) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2022年実績	2023年実績	2024年実績	2024年目標値	達成度(%)	達成度の進捗状況及び次期計画（または独自計画）のKPIへの反映状況
1	百年の森林 ver2.0	都市部企業等との協働プロジェクト件数	2021年3月 0件	2023年3月 18件	2024年3月 44件	2025年3月 57件	2024年 13件	438%	次期計画反映済み。目標は既に達成しているが、2030年の目標達成に向けて引き続き取組を進めていく。
2	百年の森林 ver2.0	教育系ローカルベンチャー事業数	2021年3月 3件	2023年3月 4件	2024年3月 4件	2025年3月 4件	2024年 4件	100%	次期計画反映済み。目標は既に達成しているが、2030年の目標達成に向けて引き続き取組を進めていく。
3	百年の森林 ver2.0	森林サービス産業の新規創出数	2021年3月 4事業	2023年3月 5事業	2024年3月 7事業	2025年3月 13事業	2024年 12事業	113%	次期計画反映済み。目標は既に達成しているが、2030年の目標達成に向けて引き続き取組を進めていく。
4	百年の森林 ver2.0	百年の森林事業 森林施業面積	2021年3月 1,821 ha	2023年3月 1,946 ha	2024年3月 2,020 ha	2025年3月 2,137 ha	2024年 2,100 ha	113%	次期計画反映済み。目標は既に達成しているが、2030年の目標達成に向けて引き続き取組を進めていく。
5	百年の森林 ver2.0	ローカルベンチャー事業の新規創出数	2021年3月 48事業	2023年3月 65事業	2024年3月 69事業	2025年3月 70事業	2024年 56事業	275%	次期計画反映済み。目標は既に達成しているが、2030年の目標達成に向けて引き続き取組を進めていく。

(6) 第2期SDGs未来都市計画の進捗評価結果を踏まえた総括

●計画全体の総括

経済と環境の両輪で取組を進める本村ならではのSDGs推進が出来ており、概ね順調に推移していると言える。

●成果

ローカルベンチャー事業の創出が順調に進んでおり、移住者の増加や村の経済活性化にも大きく寄与している。また、再生可能エネルギーの推進も順調に進んでおり、脱炭素に向けた取組だけでなく、エネルギー自給や村内経済循環にもつながっている。

●課題

村の核となる森林事業において、管理面積や予算の兼ね合いから施業面積が伸び悩んでいる。企業版ふるさと納税やJクレジットなどの資金調達により事業の加速化を図る。

●行政内部の推進体制

企画部門がSDGs推進の中心をになっているが、小規模自治体の強みである小回りが利くことを活かして、随時柔軟に連携が取れる体制を整えている。

●情報発信・普及啓発

各事業の情報発信に加えて、小中学生のSDGs学習発表会などの機会を設けている。

●ステークホルダーとの連携

指標のとおり、村内・村外の事業者との連携が必須であり、村内事業者との連携スキームは定着しており、村外企業とのコネクションづくりと連携方法の構築が一層必要となる。

●自律的好循環の形成

村内事業者の事業化・成長を支援するスキームが定着し、自走できている事例も多く見られる。ローカルベンチャー事業は事業数をKPIとしているが、事業規模拡大も目指しており、事業者の自立をより一層支援していくことが今後の課題ともなる。

●地方創生・地域活性化への貢献

緩やかな人口減少は続いているが、ローカルベンチャー・挑戦の村というイメージと認知が定着し、村民の20%以上がIターン者となるなど、村の活性化に寄与しているといえる。

●今後の展望

百年の森林構想を中心として現状の計画に基づいた取組を引き続き進めるが、村外企業との連携がより重要となると考えているため、村内のプレイヤーと村外企業をつなげる取組を強化していく。

(7) 有識者からの取組に対する評価

・目標としていた事項は、概ね順調に推移しており、特に、都市部企業等との協働プロジェクト数は、目標を大きく超える成果を出している素晴らしい。SDGsの全国的モデルとしては申し分ないが、やはり課題として挙げられている、ローカルベンチャーの創出では限界がある雇用拡大をどう図っていくか、次のフェーズでの挑戦に大いに期待したい。

・「百年の森林構想」を着想し、長期的な視点に立って、地域の有する知的、人的、経済・社会的な資源を有効に活用して戦略的かつ自律的な活動を展開するとともに、小規模自治体が直面する諸課題を克服しながら、目標達成に向けて尽力されている貴村の取組に敬意を表し、今後とも引き続き全国のモデルとなるよう、更なる活動が展開されることを期待している。

・全国6自治体が連携して展開している「ローカルベンチャー推進協議会」の取組は、まさに「SDGs未来都市」の枠組みとして目指すべき広域的取組の模範事例として、今後とも更なる発展を期待している。